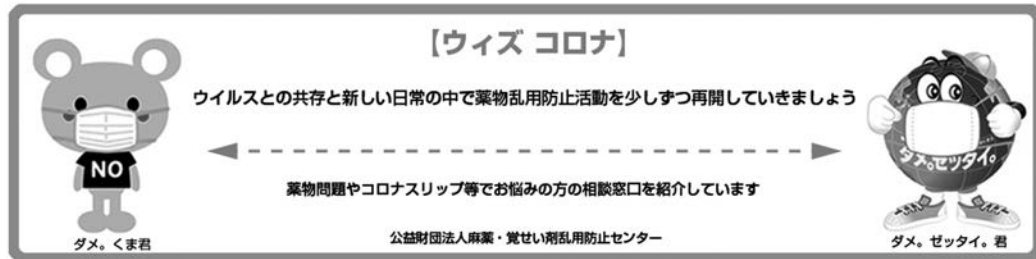


「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金 令和2年度の啓発活動状況

～新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえて～



厚生労働省、都道府県（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合（薬物犯罪事務所）、警察庁など関係省庁の協賛及びボイススカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどの民間団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びその一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」を、6月27・28日を中心に約一カ月間、各都道府県で実施する予定でしたが、昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度は、地域の実情に配慮した上で実施することとなりました。

本普及運動は、新国連薬物乱用根絶宣言の支援事業の一環として、官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に対する認識を高め、併せて、国連決議による「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図り、内外における薬物乱用防止に資するために実施されてきました。

この普及運動と並行して、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種業業関係団体、理美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出による啓発、募金運動などを行なう「地域団体キャンペーン」も地域の実情に沿った運営方式により実施されました。

以下、感染拡大防止を踏まえた都道府県ごとの啓発活動の取り組み状況をご報告いたします。

「『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージ

今日、覚醒剤、大麻、危険ドラッグなどの薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物は、一度でも手を出すと、自分の意思では止めることが極めて難しくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々の人生をも取り返しのつかないものにしてしまうため、絶対に使用してはいけません。

我が国では、近年、大麻についての検挙人員が、過去最高を更新し続け、増加の一途を辿り、昨年は、四千人を上回っています。そのうち半数以上が十代及び二十代の若年層であり、深刻な問題となっています。インターネットの普及によりSNS等では「大麻は害がない」といった誤った情報が拡散していますが、大麻も脳へ影響を及ぼすものであり、その害悪は覚醒剤などの他の薬物と何ら変わりありません。

また、覚醒剤についての押収量は、四年連続で一トンを超え、昨年は、初めて二トンを超えました。これは、大変憂慮すべき事態です。さらに、危険ドラッグを含む違法な薬物は、インターネットを利用した密売が横行しており、脅威となっています。

覚醒剤、大麻、危険ドラッグなどから自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、きっぱりと断る勇気を持つことが何よりも大切です。皆様一人ひとりが、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、ともに薬物乱用を許さない社会を作っていきましょう。

令和二年六月二十七日

厚生労働大臣 加藤勝信



(協力/読売新聞東京本社 事業局スポーツ事業部)



北海道

月 日	6月20日～7月19日（※地区により、新型コロナウイルス感染症の影響により時期を変更して実施。）
活動主体	北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会（二十地区）、ヤングボランティア（ポースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等）、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や時期を変更しての実施を検討。 ② 地域団体キャンペーン 道内の薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー等の協力を得て、麻薬・覚せい剤等の乱用防止に関する啓発資材等の配布、ポスターの掲示等を実施。

青森県

開催場所	（青森市）秋に延期 （弘前市）秋に延期 （八戸市）秋に延期（9月27日予定）
活動主体	主催 青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 協力団体
活動状況	6・26ヤング街頭キャンペーン 例年、青森市、弘前市、八戸市の3か所にて6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し

啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布をするとともに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行っているところであるが、令和2年度については、新型コロナウイルス流行の状況を踏まえ、秋に延期することとした。

岩手県

活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、街頭キャンペーン未実施。 ② 地域団体キャンペーン 県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。
------	--

宮城県

活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により県主催のキャンペーンは中止。 各地区で行われる「ダメ。ゼッタイ。」普及運動については、各地区の実情に合わせて、実施するよう通知を行った。
------	--

秋田県

月 日	令和2年6月20日～7月19日
開催場所	北秋田市ふれあいプラザ コムコム （パネル展示）
活動主体	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 秋田県実行委員会

活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、イベントは中止 鷹巣阿仁地域実行委員会が主体でパネル展を開催 ② 地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動地域実行委員会並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や病院等にてポスターの掲示、リーフレットの配布、募金箱の設置、各団体の会合等での呼びかけ（趣旨の周知、募金への協力）を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・大館鹿角地域実行委員会 ・本荘由利地域実行委員会 ・鷹巣阿仁地域実行委員会 ・大曲仙北地域実行委員会 ・能代山本地域実行委員会 ・横手平鹿地域実行委員会 ・秋田周辺地域実行委員会 ・湯沢雄勝地域実行委員会



秋田県

山形県

月 日

6月20日～7月19日

活動主体

山形県、一般社団法人山形県医師会、一般社団法人山形県歯科医師会、公益社団法人山形県獣医師会、一般社団法人山形県薬剤師会、一般社団法人山形県医薬品登録販売者協会、山形県薬事工業協会、山形県医薬品卸業協会、山形県医薬品配置協議会、山形県医療機器販売業協会、公益社団法人山形県防犯協会連合会、山形県覚醒剤等追放協議会、山形県婦人連盟、山形県青少年補導連絡協議会、山形県少年補導員連絡会、山形県保護司会連合会、山形県理容生活衛生同業組合、山形県美容業生活衛生同業組合、山形県クリーニング業生活衛生同業組合、山形県麺類飲食生活衛生同業組合、山形県旅館ホテル生活衛生同業組合、山形県料理飲食業生活衛生同業組合、山形県鮪商生活衛生同業組合、山形県喫茶飲食生活衛生同業組合、山形県喫茶飲食生活衛生同業組合、山形県社交飲食業生活衛生同業組合、七日町商店街振興組合、山形県遊技業協同組合、一般財団法人山形県交通安全協会、一般社団法人山形県自家用自動車協会、一般社団法人山形県安全運転管理者協会、一般社団法人山形県ハイヤー協会、一般社団法人山形県バス協会、公益社団法人山形県トラック協会、公益社団法人山形県宅地建物取引業協会、公益社団法人全日本不動産協会山形県本部、ライオンズクラブ国際協会3321E地区、山形県

民生委員児童委員協議会、一般社団法人山形県自動車整備振興会、山形県青少年育成県民会議

①地域団体キャンペーン
39協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。

②その他
県・各公所でポスター、募金箱を設置し、薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。

新聞に掲載される県政広報欄や県政ラジオ広報での薬物乱用防止の呼びかけを行った。
県ホームページにポスター、厚生労働大臣挨拶を掲載し「ダメ・ゼッタイ」普及運動について広く県民に広報した。

FM山形ラジオ番組で、県内の薬物乱用問題の実態や「ダメ・ゼッタイ」普及運動の活動内容について紹介し、県民に薬物乱用防止を強く呼びかけた。

福島県

月 日

6月20日～7月19日

開催場所

福島市、伊達市、二本松市、郡山市、田村市、須賀川市、石川町、平田村、白河市、棚倉町、会津若松市、喜多方市、会津坂下町、南会津町、相馬市、いわき市
計16市町村18ヶ所

活動主体

県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ・ゼッタイ」県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会（県内16地区）、関係団体

活動状況

①地域団体キャンペーン

関係行政機関、企業、薬局、中学校、高校、専門学校、大学、警察署等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行うとともに、国連支援募金活動を通じて、一般住民等への啓蒙活動を行った。若年層への啓発活動においては、登校時の高校生を中心に、パンフレット等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。

②その他
41協賛団体に対して、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。



福島県

茨城県

月 日

6月20日～7月19日

開催場所

①6・26ヤング街頭キャンペーン…新型コロナウイルス感染症拡大のため中



茨城県

活動主体	茨城県、茨城県薬物乱用対策推進本部、茨城県薬物乱用防止指導員協議会、関係団体、関係機関
	止
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止とした。
	② 地域団体キャンペーン 県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。
③ その他 夏季茨城県高等学校野球大会会場（6球場）において横断幕の掲示を行い、選手、来場者、ケーブルテレビ視聴者に対する啓発を行った。	

また、県庁2階広報コーナーにおいて、薬物乱用防止啓発パネル及び薬物標本の展示を行った。

栃木県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	県内一円
活動主体	栃木県 宇都宮市
参加人員	約150名

活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大が見られる状況を鑑み、街頭キャンペーンは実施しないこととした。
	② 地域団体キャンペーン 県内の各市町、警察署、生活営業施設、食品関係施設等の協力を得て啓発ポスターの掲示やリーフレットの配布を行った。また、来庁者に対してリーフレットや啓発資材を配布したり、国連支援募金への協力を呼びかけた。
③ その他 県ホームページや県公式「Twitter」、地元テレビの県政報道企画を活用し、薬物乱用防止を呼びかけた。また、県庁の企画展示コーナーに薬物乱用防止に関する展示をしたり、県内の小学5・6年生、中学生及び高校生に対して啓発リーフレットを配布するなど、薬物に関する正しい知識の普及啓発に努めた。	

群馬県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	例年、各地区の「ダメ。ゼッタイ。」地区推進連絡会議が中心となり、12地

区18カ所において、6・26ヤング街頭キャンペーンを実施していたが、本年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため街頭キャンペーンは中止し、地域団体キャンペーンのみ実施した。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の発生状況によるが、別の機会での街頭キャンペーン実施について検討を行う。

活動主体

群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止推進連絡会議、「ダメ。ゼッタイ。」各地区推進連絡会議（12地区）、ヤングボランティア（ポイスカウト、ガールスカウト、高校生等）、関係団体（薬剤師会、保護司会、民生委員児童委員協議会、少年補導員連絡会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、更生保護女性会、食品衛生協会、ロータリークラブ等）

活動状況

① 地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、フリーニング店、旅館等の協力を得て、ポスター掲示や店頭でリーフレットやポケットティッシュの設置、募金箱を設置してもらい国連支援募金活動への協力を呼びかけた。
② 保健所等の関係施設の敷地内に横断幕やのぼり旗を設置し、地域住民に周知した。
③ 市町村の広報誌やラジオ、インターネット等を活用し、広く住民に広報した。

埼玉県

月 日	6月27日（土）
開催場所	JR北朝霞駅及び東武東上線朝霞台駅



埼玉県

活動主体 埼玉県、埼玉県薬物乱用防止指導員連合協議会、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、各市町村、(一社)埼玉県薬剤師会、ライオンズクラブ330-C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟など	参加人員 17人
	活動状況 ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 駅頭において、のぼり等を掲示するとともに、リーフレット、うちわ及びウェットティッシュ等の啓発資材を配布した。 ② 地域団体キャンペーン 関係団体の店頭等にポスター掲示及び募金箱設置を行い、国連支援募金の呼びかけを行った。 ③ その他 県ホームページや市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。また、県内の学校や関係団体・企業へリーフレットを配布し、国連支援募金の呼びかけを行った。

千葉県



千葉県

開催場所 行政機関(県庁、保健所)等	月 日 6月20日～7月19日
活動主体 千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会	活動状況 ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、街頭キャンペーンは中止とした。 ② 地域団体キャンペーン 医師会、歯科医師会、薬剤師会、業業会、理容生生活衛生同業組合、美容業生活衛生同業組合、クリーニング生活衛生同業組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。 ③ 広報啓発活動 県ホームページ、県広報紙、テレビ、ラジオCM等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。

東京都

月 日 6月20日から7月19日まで



東京都

開催場所 行政機関(都保健所 他)	活動主体 東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、関係行政機関、関係民間団体 等
活動状況 ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、今年度については「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」都民の集いの開催を中止とした。 ② 地域団体キャンペーン 関係行政機関及び関係民間団体等にリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示及び国連支援募金箱の設置等の協力要請を行った。 また、関係行政機関において薬物乱用防止啓発ブースを設置し、来所者に対し薬物乱用防止を訴えた。 ③ その他 都ホームページや都広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止に関する内容を取り上げた。また、インターネット動画広告等で啓発動画を放映し、主に若年層に対して薬物乱用防止を訴えた。	